

令和2年度 施策評価シート

基本目標	Ⅱ	地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	220	区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる
施策	221	主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する
施策の目標	主要駅周辺は、便利でにぎわいのあるまちになり、多くの来街者が訪れています。また、生活拠点では日常生活に必要な施設が身近に整い、誰もが安心して便利に暮らしています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「主要駅（錦糸町・両国・押上・曳舟）周辺が、住み、働き、憩うことのできる便利でにぎわいのある地域となっている」と思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				75.0%					80.0%
実績	72.9									
指標名	「歩いて行ける範囲に商店・医院・公益施設などがあり、日常の用事が足せている」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				83.0%					85.0%
実績	82.2%									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
主要駅周辺の広域拠点及び身近な生活拠点については、各拠点の整備目標の実現に向け地域特性を生かした便利でにぎわいのあるまちづくりへの取組みが求められている。まちづくりは地域住民と協働で取組むことが重要であるため、地域住民のまちづくりへの機運を高めるとともに、丁寧に合意形成を図っていく必要がある。	H29	76,883
	H30	88,705
	R1	320,584

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	便利でにぎわいのある地域と思う区民の割合が、7割を超えており、更に暮らしやすくなるよう、まちづくりを進めているため

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
地域で快適に暮らせる「すみだ」の実現にむけ、引き続き、主要駅を中心とした広域拠点や身近な生活拠点の形成を推進し、拠点毎の整備目標、地域特性、事業化の段階等に応じたまちづくりを進める必要があるため。	
【今後の具体的な方針】	
とうきょうスカイツリー駅周辺整備及び京成曳舟駅周辺道路整備については、着実に事業推進を図る。これまでの再開発等により拠点形成が進む曳舟駅周辺地区整備では、地元機運も醸成されてきており、まちづくりの具体化について重点的に取組む。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	とうきょうスカイツリー駅周 辺整備事業	43,577	45,437	89,014	68	現状維持
					68	令和元年度
2	京成曳舟駅周辺道路整備 事業	271,808	27,961	299,769	59	現状維持
					7	令和元年度
3	駅周辺地区整備事業(曳 舟)	5,117	15,728	20,845	70	現状維持
					76	令和元年度
4	駅周辺地区整備事業(八 広・両国)	82	961	1,043	3.1	現状維持
					3.1	令和元年度
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

令和2年度 事務事業評価シート

施 策	221	主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する	部内優先順位
事 業 名	とうきょうスカイツリー駅周辺整備事業費		1
目 的	押上・とうきょうスカイツリー駅周辺においては、鉄道の高架化に併せて道路等の都市基盤整備を図り防災性の向上を推進するとともに、南北市街地の一体化や高架下活用を見据えた広域総合拠点にふさわしい魅力あるまちが形成されている。		主管課・係(担当)
			拠点整備課拠点整備担当 03-5608-6262
対 象 者	地域住民、駅利用者及び来街者		
根 拠 法 令 関 連 計 画	都市計画法、道路法、収用法、東京都防災都市づくり推進計画		
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤6人・委託先:(株)URリンク外2者
事 業 内 容	<p>地区計画により、将来のまちの姿を見据えた良好なまち並みを誘導し、広域総合拠点にふさわしい複合市街地の形成を図る。特に鉄道北側地区においては、鉄道高架化による街の変化や防災上の課題に対応するまちづくりルールを地域の意見を踏まえてとりまとめ、魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>加えて、防災性の向上、安全安心な移動空間の確保、回遊性の向上等を目的に、地区内の主要生活道路の整備を推進する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地区計画「機能再生ゾーン」の地区整備計画の検討 ●地区計画「新タワーゾーンB地区」地区整備計画の変更 ●駅前・駅周辺(鉄道高架下を含む)に関する計画の検討 ●押上二丁目地区不燃化特区事業の推進 ●地域住民等を対象としたまちづくり勉強会・分科会の実施 <p>【墨田区画街路第12号線の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都市計画決定:平成31年3月29日 ●延長:約470m ●計画幅員:12m(現況幅員:6m~12m) ●車線:2車線 		
経 過	開始年度	平成19年度	終了予定
	令和12年度		
<p>【平成19年度】 押上・業平橋駅周辺地区地区計画策定(H18年9月押上・業平橋地区まちづくりグランドデザイン策定)</p> <p>【平成24年度】 地区計画の都市計画変更(地区整備計画追加 にぎわいゾーンC・D地区)</p> <p>【平成26年度】 第1回 とうきょうスカイツリー駅周辺地区まちづくり勉強会 地区計画の都市計画変更(地区整備計画追加 にぎわいゾーンE・F地区)</p> <p>【平成30年度】 墨田区画街路第12号線の都市計画決定</p> <p>【令和元年度】 地区計画の都市計画変更(地区計画名称、区域の整備・開発保全に関する方針並びに壁面の位置の制限(新タワーゾーンB地区)の変更) 用地測量(区画街路第12号線)</p>			
議 会 質 問 の 状 況	<p>[平成30年12月 産業都市委員会] 高架下空間の利用は、区のビジョンに基づく活用方針を持って、鉄道事業者と協議を進めるべき。</p> <p>[平成31年2月 予算特別委員会] 高架下空間の利用方法については、早い段階から鉄道事業者との協議を進めていくべき。</p>		
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和元年度から、墨田区画街路第12号線の整備事業は、拠点整備課から立体化推進課の所管とした。		

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額(事業費)		13,700	20,184	37,808	20,220	64,000	18,057
決算額(令和2年度は見込み)		13,592	20,117	32,019	18,884	43,577	18,057
財 源	国						
	都	6,500	5,000	11,000	7,614	5,730	2,000
	その他						
一般財源		7,092	15,117	21,019	11,270	37,847	16,057
執行率(%)		99.2%	99.7%	84.7%	93.4%	68.1%	100.0%

予算・決算の内訳(単位:千円)								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	すみだ中央エリア北側地区市街地整備	18,814	委託料	まちづくり事業推進委託	27,236	委託料	まちづくり事業推進委託	18,057
			委託料	測量、建物調査ほか	16,256			
			旅費	管外	6			
			使用料及び賃借料	会場使用料	47			

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	鉄道北側住宅密集地域の不燃領域率				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		73	R12	目標	66	67	68	69
				実績	66	66	71	71
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	71	71	72	72	72	73
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	押上二丁目地区は不燃化特区に指定されており、不燃化を強力に推進している。当地区の中でも特に防災上の課題を抱えている、鉄道北側住宅密集地域の不燃領域率を指標として選定した。目標値は、市街地の延焼による焼失率がほぼゼロとなる不燃領域率70%以上とした。(土地利用現況調査を参考に算出)							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	地区計画区域内における地区整備計画策定の面積割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
100		R12	目標	68	68	68	68	
			実績	68	68	68	68	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		68	68	68	68	68	100	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
地区整備計画を策定することで、民間開発を適切に規制・誘導することが可能となり、ひいては、広域総合拠点に相応しい良好な街並み形成を誘導できるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・押上・とうきょうスカイツリー駅周辺地区地区計画(機能再生ゾーン)の地区整備計画の策定に向けて、まちづくり勉強会、分科会をとおして地域の意向の抽出、まちづくりへの理解及び意識の醸成を図る。 ・まちの防災性向上や広域拠点にふさわし魅力あるまちを形成するために、墨田区画街路第12号線の道路整備を推進する。

課題・問題点
<p>・鉄道北側地区は、老朽木造住宅が密集し、狭あい・行止まり道路や狭小敷地・無接道敷地があり防災上の課題があること、広域総合拠点にふさわしい魅力あるまちを形成するために、不燃領域率の向上、地区整備計画の策定及び墨田区画街路第12号線を整備する。</p>

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	用地取得率				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		100	H30	目標	—	7	100	100
				実績	0	1.7	16	21
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	100						
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	道路や交通広場の整備には用地取得が不可欠であるため。 目標値は用地取得計画を踏まえ決定した。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	公共施設整備率				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
100		R2	目標	—	0	42	59	
			実績	0	0	7	7	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	100							
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
道路工事が進み歩道や交通広場が整備されることで、利用者の安全性・利便性が向上するため。 目標値は整備スケジュールを踏まえ決定した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<p>駅周辺は歩行者等が集中するため、安全安心を確保するための道路整備や、駅利用者の利便性向上に資する交通広場の整備が必要である。</p> <p>本事業は駅前の重要な基盤整備であるため、地域の協力を得ながら、引き続き着実に事業を進めていく。</p>

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・事業費が多額であるため、着実な補助金の活用、確保を図っていく。 ・事業認可期日が令和2年度末であることから、事業認可期間の変更を行う必要がある。 ・駅前に相応しい商業・業務・住宅等の複合用途による賑わい機能の創出に向けて、民間の開発計画を適切に誘導していく必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	まちづくり協議会(勉強会)の開催数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		13	R1	目標	2	6	10	13
				実績	2	6	10	12
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	13					
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	協議会等は、まちづくりの手法や仕組み等への理解を深め、将来のまちづくり案を検討する場であることから、開催数が事業進捗を示す指標となるため。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	まちづくり協議会への入会率				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
70		R1	目標	0	50	60	70	
			実績	0	74	75	76	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		70						
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
権利者組織である「まちづくり協議会」の設立や協議会への入会率が、住民主体のまちづくりの進捗を示す指標となるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	平成29年度にまちづくり協議会が設立され、以降継続的に協議会を開催しており、入会率も非常に高い。今後は、次のステップである再開発準備組織の設立に向けてまちづくり案を作成するとともに、引き続きまちづくりへの理解、機運醸成を図る。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・権利者の高齢化が顕著であり、スピード感を持ったまちづくりの推進が求められている。 ・人口減少化や建設工事費の高騰など、今後の社会・経済情勢に対応した事業計画を検討する必要がある。 ・零細権利者や高齢権利者に対する生活再建方策を検討する必要がある。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	両国駅北口地区の地区計画の届出件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		18	R7	目標	-	2	4	6
				実績	3	9	13	15
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8	10	12	14	16	18
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	建築物の更新等の機会をとらえ、再開発地区計画に即した広域総合拠点にふさわしい開発を誘導するため、地区計画の届出件数を指標として選定した。目標値は過去5年間の平均届出件数1.4件を参考に算出し、設定した。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	両国駅北口地区の地区整備計画の策定面積				単 位	ha
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
3.3		R7	目標	-	3.1	3.1	3.1	
			実績	3.1	3.1	3.1	3.1	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
地区整備計画を定めることにより、より一層広域総合拠点にふさわしい開発の誘導が期待できるため、整備計画の提案できる最低敷地面積(0.1ha)を基準とし、10年間で2件の地区整備計画の策定を見込んだ。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<p>【両国駅周辺】 地区計画制度の活用により、民間開発計画を適切に誘導することで、まちづくりを進めている。引き続き、建築物の更新の機会をとらえ、適切に誘導していく。</p> <p>【八広駅周辺】 地元の動向を見守りつつ、民間の開発計画を適切に誘導していく。</p>

課題・問題点
<p>【両国駅周辺】 地区計画区域内では、大規模な敷地での整備や公共施設の整備は概ね完了しており、この事業の目的はほぼ達成している。しかし、この地区計画を定めた東京都からは、整備計画が未整備の地区が残っているのは望ましくないという立場であることから、今後も建物の更新の機会をとらえ地区整備計画の策定を誘導する。</p> <p>【八広駅周辺】 120号線の拡幅整備、鉄道立体化による側道沿道の開発や高架下利用により、まちの様子が変わることが予想される。このため、まちの状況を注視しながら、まちづくりの機運をとらえ、生活拠点にふさわしい整備の誘導を図る。</p>